

あさのちゃんねる

特 集

「北陸でトップクラスの治療実績、 子宮筋腫手術UAE (子宮動脈塞栓術)」

放射線科部長

西田 医師 インタビュー



vol.29

2019年 春号
(年4回発行)

連携登録医のご紹介

耳鼻咽喉科なかいづみクリニック

院長 中泉 俊彦 先生



年号と一緒に
新しいスタートをきる
春ですね♪

病院の理念

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

病院の方針

【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。

【救急医療】断らない救急医療を目指します。

【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。

【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全で質の高い医療の提供に努めます。

【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。

北陸でトップクラスの治療実績、 子宮筋腫手術UAE (子宮動脈塞栓術)



放射線科部長
にしだ ひろと
西田 宏人

日本医学放射線学会専門医

趣味・健康法

映画鑑賞、腸活

座右の銘

座って半畳、寝て一畳、天下取っても二合半

先進的な医療を提供する当院放射線科では産婦人科と連携し、平成26年からUAE(子宮動脈塞栓術)を開始しました。子宮筋腫治療の新しい選択肢として注目され、県内外から患者さんが来院されています。放射線科医である西田医師にその特徴についてお伺いしました。

高精度な医療を提供する 当院の放射線科

放射線科医の仕事は、大きく分けて「画像診断」「IVR」と呼ばれる画像診断装置を使った治療」「放射線治療」の3つがあります。「画像診断」とは、X線検査(レントゲン検査)、CT(コンピュータ断層撮影)、MRI(磁気共鳴撮影)、超音波検査などで撮像した体内の画像を読み、診断することで、皆さんも一度はいずれかの検査を経験したことがあるのではないでしょうか。放射線科医は患者さんの症状や疑われる疾患に対して、適した検査方法を主治医に伝え、撮像方法や造影剤の量を指示します。撮像後は画像を評価し、主治医に疑われる診断名を伝え、提言をします。日本は人口当たりのCT保有率が世界トップで、MRIも多く医療機関に導入されています。画像診断機器の発達はめざましく、2次元的な画像情報だけでなく、最近では立体的な3次元情報、動的な4次元情報、さらには臓器の機能を評価する情報も得られるようになっています。当院ではハイスペックな画像診断機器を導入しており、最新の撮像技術を有しています。日進月歩で新しい撮像方法も開発されるため、その情報を取り入れ、日常診断に導入しています。検査が多様化、複雑化する中で、重要になってくるのが患者さんの状態に合った検査を選択することです。患者さんにとって無駄がなく、身体に負担の少ない検査をコーディネートし、迅速かつ正確な診断へつなげることも放射線科医の大変な役割です。また、当院の大きな特徴となっているのが先進的な放射線治療です。放射線治療は手術療法、化

学療法と並ぶがん治療の3本柱のひとつで、当院では定位放射線治療装置であるガンマナイフ、ノバリスを導入し、北陸で高い治療実績を上げてきました。近年、その精度はさらに向上し、手術をせずに根治を目指す治療、臓器の機能を可能な限り温存する治療として期待が高まっています。



IVRの新しい取り組み、 子宮筋腫手術UAE(子宮動脈塞栓術)

当院ではIVRの最新装置を備え、さまざまな治療に対応しています。IVRとは、X線やCTなど画像診断装置を使って身体の中を透かして見ながら行う治療で、画像下治療とも呼ばれています。身体の状態をリアルタイムに観察しながら、血管内に針やカテーテルといった医療機器を入れ、臓器や血管にある病変部の治療をします。例えば、がんの病巣までカテーテルと呼ばれるチューブを通して、ピンポイントで抗がん剤を流すことができます。血管内に動脈瘤があれば、瘤のところまでカテーテルを通して、瘤が大きくならないように詰め物をする、破れている血管を詰める、細くなった脈管をバルーンカテーテル(風船状の医療機器)によって広げる、たまたま膿を出すといった治療が可能です。

当院ではIVRの新しい取り組みとして、子宮筋腫のカテーテル治療である子宮動脈塞栓術(以下UAE)を行っています。子宮筋腫は40代以上の女性の20~40%が罹患していると言われる良性腫瘍で、代表的な症状は月経量の増加や強い月経痛です。UAEはカテーテルを用いて子宮筋腫に血液を送る動脈をふさぐ血管内治療法で、子宮を温存できる治療法として世界的に普及しており、平成26年に日本で保険適用になったことをきっかけに当院でも治療を開始しました。治療は産婦人科と放射線科が連携して行っています。原則として、今後出産を希望されない方を対象とし、月経痛などの症状の緩和を目的

としています。子宮筋腫に栄養を送る動脈を薬剤でふさぐことで、腫瘍のサイズが小さくなり、中には消滅してしまうケースもあります。全身麻酔をともなう外科的手術を受けずに症状を軽減できる、子宮を温存できる、傷口が小さい、副作用があるホルモン剤の長期服用を避けられるといったメリットがあります。また、入院日数が平均2泊3日と短く、比較的早く社会復帰ができます。UAEは子宮筋腫治療のひとつの選択肢であり、身体への負担が大きい開腹手術をする前にこの治療法を試される方もいらっしゃいます。当院はUAEで北陸トップクラスの治療実績を誇っています。治療について、詳しくお知りになりたい方は当院産婦人科へご来院ください。

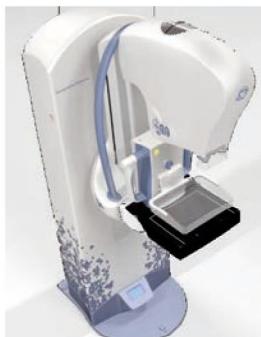
「早い段階で病変を見つけたい」という思いが原点

私が放射線科医を目指した原点は「早い段階で病変を見つけたい」という思いです。もちろん外科的手術は完治を目指せるすばらしい治療法ですが、患者さんの身体の負担を考えると、開腹手術が必要のない段階で病変を発見し、完治を目指すことが理想です。患者さんの今後の生活を考えると、臓器は切らすに、できる限り温存することが望ましいとも思います。放射線科医は画像診断により病変を発見でき、IVRの技術によって臓器温存に貢献できるところが誇りです。

当院では各科の医師が連携し、最善の医療を提供しています。それぞれの診療科で対応できない加療中のトラブルに対しても、IVRの手技を用いる事で放射線科医がお手伝いできる場面があり、他院の先生に「浅ノ川総合病院は、院内にIVRに長けた放射線科医がいるのでうらやましい」と言われたことが印象に残っています。現代は患者さんが医療、医師を選べる時代です。正しい医療情報を収集し、自分に合った病院、医師を選んでください。当院は患者さんの立場に立った医療を提供することで、地域から選ばれる病院でありたいと思っています。



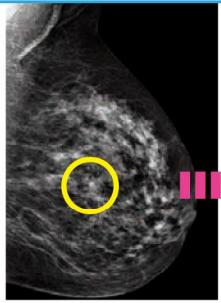
放射線科 マンモグラフィ紹介



当院のマンモグラフィ装置はGE社製「Senographe Essential」という装置になります。この装置は、日本乳がん検診精度管理中央機構で審査され、検診精度管理の線質・画質基準を満たすものと認定を受けました。当院は日本乳がん検診精度管理中央機構からマンモグラフィ検診施設画像認定を受けた施設になります。

当院のマンモグラフィは、トモシンセシス(3D)機能付きの装置です。3D撮影を行うことで、乳腺内に隠れて見えなかった病変を発見できたり、病変の大きさ、形、辺縁なども確認しやすくなります。

通常マンモグラフィ画像



トモシンセシス画像



通常のマンモグラフィでは指摘できない乳がんが、トモシンセシスでは明瞭に写しだされています。

この装置が導入されてから、3年が経ちました。経験された方もいらっしゃると思いますが、3D撮影は少しずつ機械の角度を変えながら複数回撮影を行います。通常の撮影に加えて3D撮影を行う場合、1回の撮影で乳房を圧迫している時間は10数秒程度です。当院では、必ず女性技師が撮影を行います。痛みが強く、我慢できない場合は圧迫を少し弱めたり、中止することも可能です。遠慮せずにいらっしゃってください。

マンモグラフィは、豊胸術をされている方、ペースメーカーやシャントチューブを挿入されている方、授乳中の方にはおすすめできません。代わりに超音波で検査可能ですので、事前に必ず申し出てください。超音波検査も女性技師が行います。



女性技師によるマンモグラフィ検査



生涯に乳がんを患う日本人女性は、現在11人に1人といわれており、30代から増加し始め、40代後半から50代前半にピークを迎えます。「わたしはまだ若いから、大丈夫。」とか「年取ったから乳がんにはならんよね。」とか思っている方もいらっしゃるかもしれません。20代の若い方や60代以上の年配の方でも乳がんを患う方はいます。とにかく近親者に乳がんを患った方がいる場合は、乳がんのリスクが高まります。年代にかかわらず、早期発見のためには検診を受けること、自分で触診して定期的にチェックすることが大切です。

お問い合わせ先

TEL: 076-252-2101(代)

■ 乳房にしこりや痛みを感じる方、乳頭から分泌物が出るなどの症状がある方
外科 乳腺外来 <受付時間>月～木／8:30～11:00

■ 乳がん単独検診を希望される方
健診センター <お問い合わせ時間>月～金／14:00～16:30

連携登録医のご紹介

今回は、金沢市田上の里の『耳鼻咽喉科なかいすみクリニック』をご紹介いたします。

平成21年、母校の兼六中学校近郊に「耳鼻咽喉科なかいすみクリニック」を開院いたしました。

大学院では聴覚保護についての研究をしておりました。現在は、耳鼻咽喉科一般の診療をしておりますが、高齢化に伴い難聴が気になり始めた方々の補聴器相談や、花粉症発症の低年齢化に伴い患者人口の割合が増加している印象です。

重度の難聴や急性炎症、頭頸部の腫瘍など、外来での加療が困難と思われた症例においても、浅ノ川総合病院にて最良の医療をおこなっていただき、平素より大変感謝しております。

今後もさらに連携を深め、地域の医療に貢献させていただきたいと思います。



院長 中泉 俊彦 先生

耳鼻咽喉科 なかいすみクリニック

診療科：耳鼻咽喉科

専門領域：耳鼻咽喉科一般

略歴：石川県金沢市出身

金沢医科大学医学部卒業後、金沢医科大学耳鼻咽喉科学教室に入局しミシガン大学に留学、南砺市民病院、能登総合病院などを経て、平成21年田上の里に開業。

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	/	○	○	/
14:30～18:00	○	○	○	/	○	/	/

※土曜日のみ9:00～13:00

休診日：木曜日、土曜日午後、日曜日、祝日

住所：〒920-1156 石川県金沢市田上の里2丁目145

電話：076-223-8733

駐車場：あり

アクセス：JR金沢駅から朝霧台行きバス(有料)で30分
上若松下車徒歩20分

公共交通機関最寄り駅(停留所)バス上若松



クリニック外観

連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。



認定看護師紹介

摂食嚥下障害看護認定看護師の資格をもつ看護師に聞きました!

Q1：摂食嚥下障害看護認定看護師について教えてください。

山本・矢後：摂食嚥下障害看護認定看護師は、加齢や発達上の問題、疾病・治療により食べたり飲み込んだりする機能に障害をもつ人に対して、さまざまな場所で専門的で高度なケアが提供できることが求められます。その役割として摂食嚥下機能の評価及び誤嚥性肺炎や窒息、栄養低下、脱水予防や適切かつ安全な摂食嚥下訓練の選択および実践があります。認定看護師として、自らケアの実践をするとともに、看護スタッフへの指導や相談に応じることも大きな役割の一つです。摂食嚥下障害患者の「食べる」権利を擁護し患者・家族の意思決定を尊重した看護が行えるよう目指しています。



Q2：どのような活動をしていますか？

山本：自病棟を中心に口腔ケアについての相談・指導を行いながら実践しています。また、摂食嚥下障害患者のスクリーニングから嚥下体操の訓練や食形態の検討などもしています。その他には、矢後摂食嚥下障害看護認定看護師と協力して全病棟に出向き「誤嚥性肺炎を予防するために口腔ケアの必要性」についての体験を取り入れた勉強会を開催しています。今年度からは新人才オリエンテーションでも口腔ケアについて研修を開催しました。



矢後：現在は自病棟を中心に活動しています。所属する病棟では脳血管障害や脳腫瘍、神経筋疾患、口腔・咽頭腫瘍などといった疾患を原因とした摂食嚥下障害が多く、それぞれの疾患の特徴を考慮したケアが必要とされます。ケアは決してひとりでできることではありませんので医師や病棟スタッフ、言語聴覚士と協働したケアを目指しています。院内全体の摂食嚥下障害看護の質の向上のため、チーム活動を含めた活動を今後していく予定です。

Q3：やりがいや苦労話などあれば教えてください。

山本：患者さんや家族からの少しでも食べられるになったときや、口腔内がきれいになったときの喜びの声や笑顔があったときは嬉しく、やりがいを感じます。また、スタッフから相談があるとき頼りにされていると感じます。しかし、時間の確保の難しさや、他病棟の看護師は私たちをどのように活用したらいいのか分からぬ事も多いため、病院全体での活動はできていない現状があります。今後、相談のシステムなど構築し気軽に相談できる環境を整えていきたいと思っています。

矢後：摂食嚥下障害は疾患だけでなく、加齢などが原因となることも多いため入院する患者さんの多くが発症する可能性があります。ちょっとした工夫で食べられるようになる患者さんもいる一方、専門的な訓練や定期的な評価が必要とされる患者さんも多いのが実情です。訓練や評価が行えるスタッフもまだ少なくケアの充足ができているとはいえない現状です。訓練は日々の積み重ねであり、一朝一夕ではなかなか回復できません。忙しい業務の中行うのは大変ではありますが、ケアの中に組み込むことで継続して行えると思っています。なにより、食べられなかった患者さんが少しでも食べられるようになり喜びのお声を頂くと本当に励みになりうれしく思います。



(左)矢後絵美・(右)山本政美

新任医師紹介

今年4月に赴任された
医師を紹介します！



内科

すぎやま けんろう
杉山 賢郎

4月より赴任しました杉山賢郎と申します。糖尿病は生活習慣の病気であるため患者さんと共に病気に向き合っていきたいと思います。

専門分野／糖尿病、内分泌、甲状腺、高血圧



内科

やまむら こういち
山村 孝一

未熟な部分も多々ありますが、患者さんのため頑張ります。

専門分野／呼吸器



腎臓
内科

はらぐち たかとし
原口 貴敏

患者さんに安心できる医療を提供できるよう一生懸命頑張らせて頂きます。よろしくお願いします。

専門分野／腎臓病、血液透析



整形
外科

あべ けんさく
阿部 健作

金沢赤十字病院より赴任しました阿部健作と申します。これまでに外傷を中心に腫瘍、膝の勉強をしてきてています。地域の皆様のお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いします。

専門分野／整形外科一般、腫瘍、膝関節、スポーツ

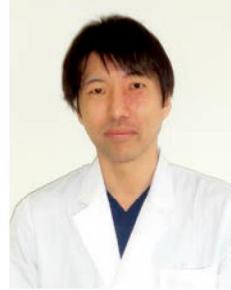


産婦人科

みょうじょう すばる
明星 須晴

4月より産婦人科部長として金沢大学より当院に赴任してまいりました明星須晴です。出身地は新潟市で、出身大学は富山大学です。主人の転勤に伴い、2009年より金沢の地に参りました。よろしくお願いします。

専門分野／産婦人科一般



内科

さわむら としだ
澤村 俊孝

当院に6年ぶりに戻ってきました。少しでも地域の医療に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いします。

専門分野／糖尿病、内分泌、甲状腺、高血圧



内科

なかむら あきのぶ
中村 彰伸

患者さんの気持ちに寄り添ってその方にとってベストな診療を行えるように精一杯頑張っていきたいです。

専門分野／消化器

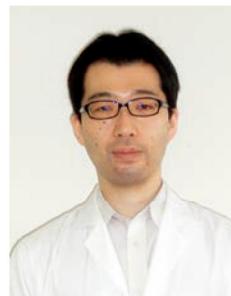


腎臓
内科

のむら かなえ
野村 佳苗

患者さんひとりひとりに寄り添った診療に努めたいと思っています。よろしくお願いします。

専門分野／腎臓



脳神経
内科

こんだに さとる
紺谷 智

当院で勤務するのは5年振りとなります。少しでも地域医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

専門分野／脳卒中、頭痛

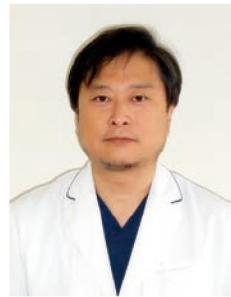


脳神経
外科

とりごえ けいいちろう
鳥越 恵一朗

当院の特徴を活かした脳神経外科治療を行いたいと思います。よろしくお願いします。

専門分野／脳神経外科一般、てんかん外科
および神経放射線外科勉強中



耳鼻
咽喉科

みやざわ とおる
宮澤 徹

金沢医科大学耳鼻咽喉科教室、細田耳鼻科EARクリニック(大阪府)等で研鑽を積んできました。よろしくお願いします。

専門分野／耳科学(難聴・中耳炎)、
鼻科学(アレルギー・副鼻腔炎)

行事レポート

令和元年度

入職式・新入職員研修

平成31年4月1日(月)、当院の入職式が行われました。

総勢53名の新しい職員を迎え、これから浅ノ川総合病院を担う力として小市理事長から告示を、荒木病院長から訓示を受けた新入職員からは、頼もしい宣誓が行われました。

オリエンテーションでは荒木病院長から理念や経営方針の説明を受けました。各部門の責任者からは部門紹介や、医療情報システム、接遇研修、臨床倫理、施設基準や施設管理など病院で働くために必要な知識を学びました。グループワークでは最初は慣れないながらも、社会人としての在り方や医療問題を話し合い、おおいに盛り上りました。同期の桜と共に、これから浅ノ川総合病院を盛り上げていってくれることを期待します！



お知らせ

✿「看護職と看護学生のための就職情報交換会」に当院が参加します。

令和元年5月12日(日)13:00～16:00 石川県地場産業振興センター 本館1F 大ホール

✿創立記念日休診のお知らせ

令和元年6月1日(土)は創立記念日につき、外来診療を休診いたします。(救急の場合は救急外来で対応します)

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。

TEL:076-252-2101(代) URL:<http://www.asanogawa-gh.or.jp/>
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

